

第二十二回（株）USEN 番組審議会 議事録

開催日時：平成19年10月11日13:00～

開催場所：（株）USEN ミッドタウンタワー33F

F07 会議室

出席者 委員：小林亜星、有馬祐行、山本武司、渡辺英夫、湯川れい子（順不同・敬称略）

放送局側：5名

議事内容

1. 会社動向、放送事業についての報告

2. 番組課題

季節音楽について

【審議対象番組】

「AE-15 季節音楽（童謡 etc.）」「D-1 季節音楽（イージーリスニング）」

「D-2 季節音楽（オルゴール）」「H-1 季節音楽（童謡インスト）」

「H-2 季節音楽（J-POP インスト）」

「K-6 季節／催事用 1」「K-12 季節／催事用 2」「K-13 季節／催事用 3」

「K-14 季節／催事用 4」

3. 番組審議

- 「AE-15 季節音楽（童謡 etc.）」を家族で聞いてみたが、今の子どもにとっても、童謡は古い物の方が馴染みがあるようだ。
- 季節音楽の中でも童謡は歌詞が重要な部分を占めるので、インストへのアレンジはいささか無理があるのではないか。
- 業務店での使用を想定する場合、来店客の滞在時間を延ばすことが重要となるが、そのためにはその場や客層、年齢層に合った音楽を流すことが重要である。
- 客層、年齢層に合った BGM を流すことも重要であり、曲名表示方式については、曲名が長い場合に文字が途中で切れる等の制限があるが、これらが改善されると尚よいだろう。
- クライマックスシリーズ～日本シリーズにかけてのプロ野球球団応援歌の放送に対しては、根強い業務店顧客からの要望があるため行っている。一方、サッカー熱の高い都市では、サッカーソングに対する需要も高いと考えられ、放送を検討していくべきである。
- 日本人には季節の感覚が染み付いているため、季節音楽以外のチャンネルでも季節感を意識して編成するとよいだろう。
- インスト楽曲はアレンジが重要である。童謡・唱歌のインスト版ではアレンジの良し悪しで雰囲気が大きく変わってくる。良いアレンジのものを提供するべきである。
- 室内で聞く場合と、屋外で聞く場合で、季節感を感じられる音楽というのも変わってくるのではないか。オープンカフェ向けの、雑踏感やおしゃれ感のある季節音楽があってもいいのではないか。
- 「D-2 季節音楽（オルゴール）」にて、コンピューターで作ったオルゴール音楽やチェレスタではなく、できる限り本物のオルゴール音楽のみを放送したほうが、本当にオルゴールが好きな方にも喜ばれるだろう。これらが混ざって放送されていると、興ざめとを感じる方もいる。
- 業務店顧客に対して、各チャンネルの使い方を解説、指導していくことも重要である。

- 顧客動向のサーチと、担当者が独自に音楽を流している業務店顧客に対してどのように切り込んで行くかが今後の課題であろう。
 - 業務店向け番組を考えた場合、チャンネル編成の経緯上、古くからあるチャンネルではより一般的に受け入れやすい内容の番組を放送せざるをえない面があるが、既存ニーズを満たすための番組と、ユーザーに新しい価値を提供するための番組をバランス良く配置していく必要がある。
 - 心理的効果等も考えながら、より販促に特化した選曲を常に検討していくことが重要である。
4. その他自由討論
- 「BF-37 シンフォニー／コンチェルト」は、音楽のグルメを唸らせるような「粹な」選曲が見受けられ、非常に良い。こういった選曲ノウハウの蓄積を継続していくべきである。
 - ハワイアン、クラシックでは、より熱心なリスナーに向けた選曲も行っていくべきである。